

横浜ベイブリッジ一般部（国道357号）及び本牧・大黒臨港道路

開通後の整備効果<その3>

記者発表資料

「ベイ一般部」効果定着!!

ここでは、横浜ベイブリッジ一般部(国道357号)の開通(平成16年4月24日)1年後の横浜市街地部の交通状況等について、平成17年4月に調査を実施しましたので結果をお知らせします。

- 供用1年後の**ベイ一般部**(国道357号)の交通量は**約16,800台/日**。

コンテナ車等の流れはベイ一般部に**定着**し、市街地部の国道等からコンテナ車等は**約7割~9割減少**。

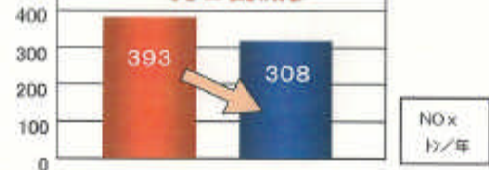
この結果、市街地部では**大気質**(NOx,SPM)の排出量が**約2割減少**。

- さらに効果は多方面に出ており、横浜港市街地部の**生活道路**(通称:水道道)の交通量は平均で**約1割減少**。

ベイの交通は着々と増加



約2割減少



約1割減少



平成17年7月14日

国土交通省 関東地方整備局 横浜国道事務所

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ
横浜市政記者会
神奈川県政記者クラブ
神奈川建設記者会
横浜ラジオ・テレビ記者会
横浜海事記者クラブ

問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局 横浜国道事務所

電話045-311-2981

副所長 箕作 光一 (内線205)
調査第二課長 深沢 哲也 (内線461)

横浜ベイブリッジ一般部(国道357号)開通1年後の横浜市街地部の交通状況等の変化

- 横浜ベイブリッジ一般部(国道357号)の交通量は、供用直後の交通量(約6,700台/日)と比べ約2.5倍の約16,800台/日。
そのうち大型車交通量、特にコンテナ車等の占める割合は以前高い状況ですが、特に普通自動車は供用直後(約2,000台/日)に比べると約4倍に増加。
- 横浜港周辺市街地部(鶴見区、神奈川区、西区、中区)に集中していたコンテナ車等の交通が臨海部に転換。
横浜港周辺道路(国道15号大黒町入口、国道133号本町5丁目)では開通前と比べ大型車交通量が約2割減少(15~21%)、コンテナ車等は約7~9割減少(71~87%)が継続。
- コンテナ車等の減少に加え生活道路の交通量の減少等により、横浜市街地部で大気質(NOX、SPM)の排出量も約22~27%減少。
- 横浜港市街地部の生活道路(鶴見駅三ツ沢線(通称:水道道))の交通量は平均で約1割減少。
- 尚、今後継続的な調査が必要ですが、横浜港周市街地部の国道15号等(神奈川区)において人身事故発生件数を前年の同時期と比べると約8~25%減少。



平成17年6月(大黒ふ頭側)

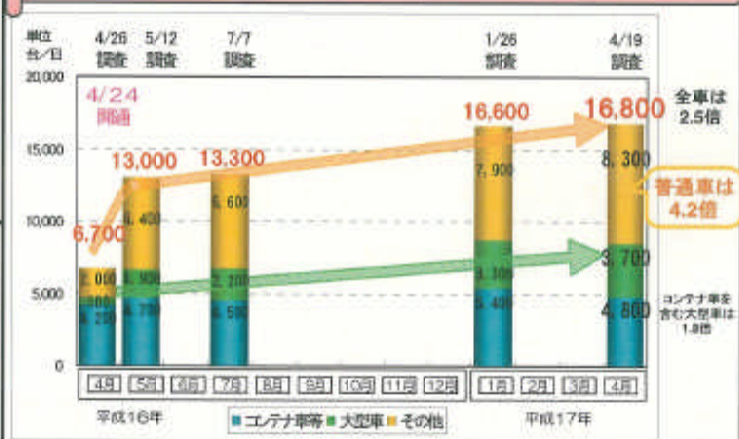


平成17年6月(本牧ふ頭側)

コンテナ車等の流れが転換し、市街地部の国道15号ではコンテナ車等が約9割減少

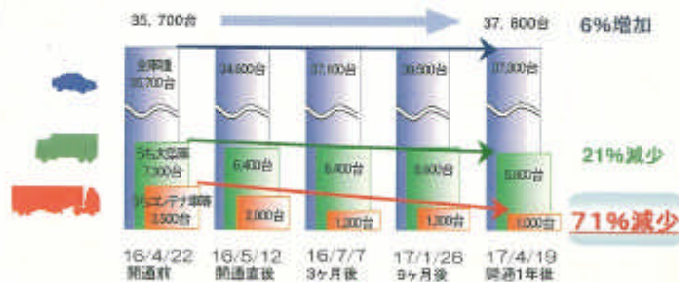


利用交通は16800台/日 ベイ一般部交通量は着々と増加



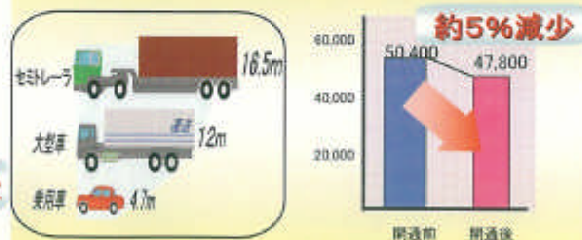
コンテナ街道(国道133号)ではコンテナ車等が約7割減少

コンテナ街道(国道133号)では、コンテナ車等が約7割減少。全車種の車両台数は約6%増加していますが...



(参考)

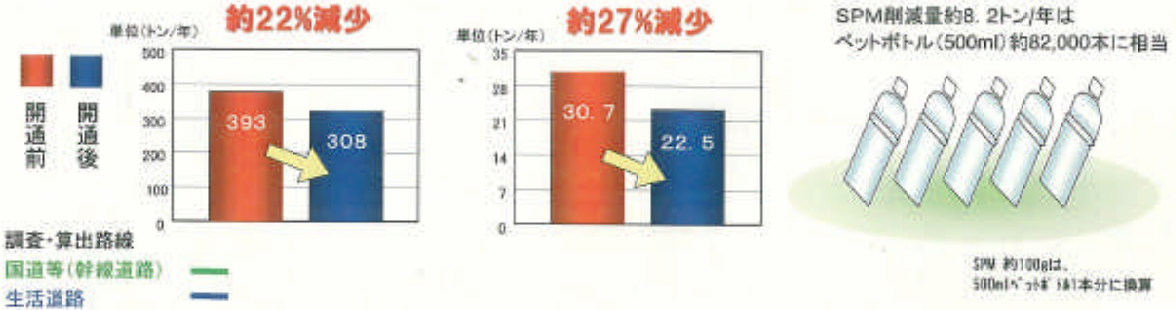
大型車等を乗用車の長さで換算すると約5%減少



※大型車(セミトレーラを含む)の「長さ×台数」を乗用車の「長さ×台数」に換算

横浜市街地部では、コンテナ車等の減少等により大気質(NOx、SPM)排出量が約2割減少

NOxの削減量約85トン/年 SPMの削減量約8.2トン/年

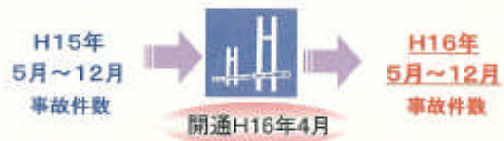


横浜市街地部の生活道路の交通量は約1割減少

横浜港周辺の生活道路(通称水道道)の交通量の変化



(参考)交通の安全性(人身事故発生件数の減少)



人身事故件数を前年の同時期と比べると

国道1号 **8%減少**
 国道15号 **25%減少**

